

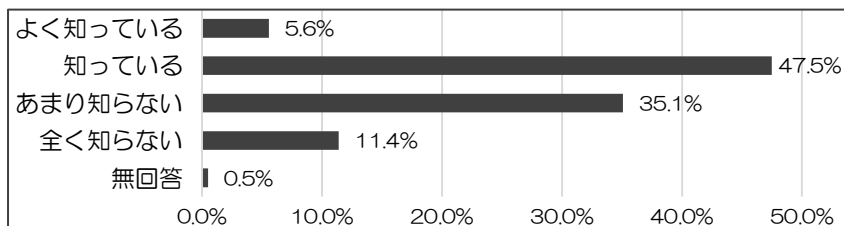
「丹後地域における府立高校の今後の在り方」に係るアンケート結果のお知らせ

平成28年11月

今年9月に実施いたしました「丹後地域における府立高校の今後の在り方」に係るアンケートの結果についてお知らせいたします。丹後地域の小・中学校、与謝の海支援学校小・中学部の全児童生徒 7,446 名の保護者の皆さまにアンケート用紙をお配りし、3,859 名（お子さまの人数に換算すると 5,903 名相当）からご回答いただきました。アンケートへのご協力、誠にありがとうございました。

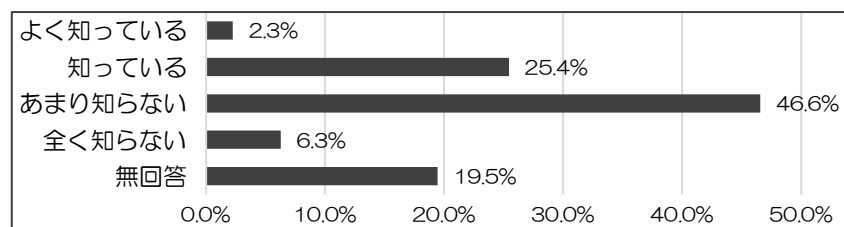
◎集計結果

①丹後地域における府立高校の在り方を検討していることについて



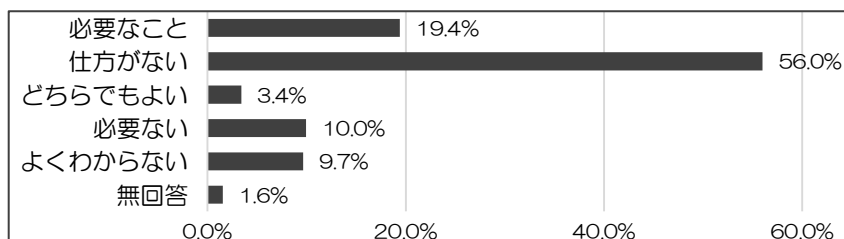
①の「在り方を検討していること」については、「よく知っている」「知っている」が合わせて約53%と半数を上回りました。また、中学生のお子さまがいらっしゃる保護者の方で見ると約62%でした。

②丹後地域における府立高校の在り方に関する検討の内容について



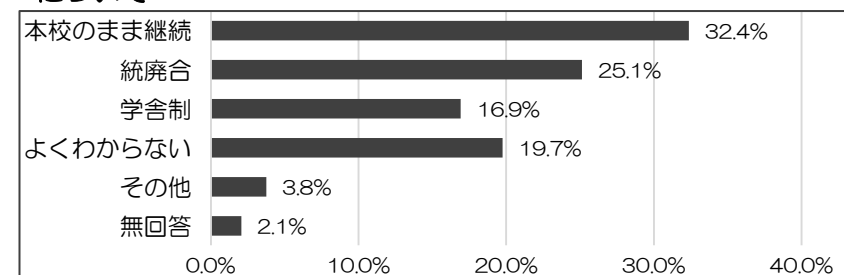
②の「検討の内容」については、「よく知っている」「知っている」は合わせて約28%にとどまり、中学生のお子さまがいらっしゃる保護者の方で見ても約35%でした。

③今後も生徒数が減少する見込みの中、現在の高校の在り方を変えていくことについて



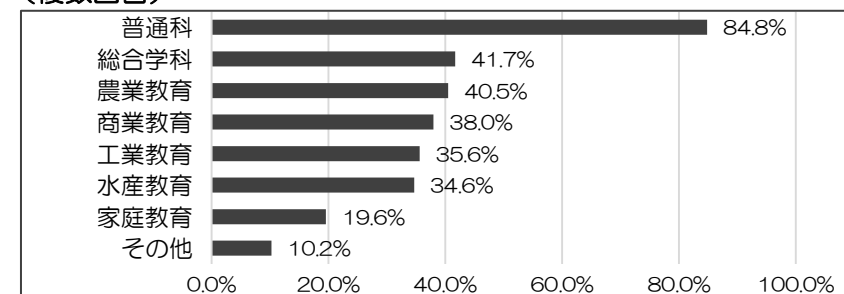
③の「高校の在り方を変えていくこと」については、「必要なこと」「仕方がない」を合わせると約75%で、「必要ない」は10%でした。

④府立高校の今後の在り方の方向性として提示した「三つの道」について



④の「府立高校の今後の在り方の方向性として提示した三つの道」については、「本校のまま継続」が約32%でした。「統廃合」「学舎制」は合わせて42%であり、③の回答と④の回答は必ずしも連動しない結果となりました。

⑤丹後地域の府立高校に必要なであると思う教育内容について（複数回答）



⑤の「必要であると思う教育内容」については、回答者全体の約85%の方が「普通科」を選択されており、「総合学科」「農業」「商業」「工業」「水産」といった専門的な教育がそれぞれおおむね40%前後でした。また、「その他」としては、「福祉」「看護・医療」「多様な選択ができること」というご意見が多く、次いで「介護」「外国語」「スポーツ・体育」「大学進学に特化した教育」「地域の産業振興、観光など地域振興に資する教育」などを望まれるご意見がありました。

全体の約3割の方がアンケートの意見欄に記入されており、その内容から、④で同じ選択肢を回答された方でも、その理由は様々であることがうかがえました（裏面に一部紹介）。いずれの選択でも、「教育の質の確保」と「通学への配慮」に関するご意見が多くありました。

また、「本校のまま継続」「学舎制」を選択した方の多くに、通学のことを考えると地域に高校を残してほしいというご意見が共通しており、「統廃合」を選択した方の中には、学びの環境を整え、活力ある高校を維持するには一定規模が必要といったご意見もありました。

アンケートで皆さまからいただきました、府立高校の今後の在り方に関するご意見の一部を紹介します。
(その他いただいたすべてのご意見は、府教育委員会のホームページに掲載しています。)

◎設問「府立高校の今後の在り方の方向性として提示した“三つの道”」の回答別

1「小規模になっても各高校を本校のままで継続すべきだと思う」

- ・小・中学校を中心に統廃合が進んでいる中、府立高校まで規模を縮小する必要はないと思う。丹後にも見られる貧困等の苦しい現状、通学費等の保護者の負担、経済的な状況を考えると、たとえ小規模になったとしても、保護者の一人としては現状維持を強く望む。
- ・生徒数が減少していく中で在り方が変わっていくのは仕方がないのかもしれないが、子どもたちには多くの選択肢を与えてやりたいと思う。
- ・学舎制とするには学舎間の距離が遠いのではないかと。交流の幅が広がるのはよさそうだが、行事や授業などで移動する機会が多いと時間のロスになるのでは。
- ・各学校の特徴が充実し、安定するなら良いと思う。学舎制にした場合、学年で学舎を分けるのか等、詳しい内容を知った上で考えたい。学舎間の多様な交流として実際に行われるであろうことを詳しく知りたい。

2「統廃合により学校規模を確保し、教育内容の充実を図るべきだと思う」

- ・大学や社会に出て行くためのステップである高校の立場を考えると、小・中学校のように、「田舎だから人数が少ない」「それほど競争することもない」という環境は将来的に不安。ある程度の大勢の中で自分をつくり、勉強のレベルも都会に負けない競争意識を付けてほしい。少人数でおだやかに過ごして良いのは中学校までだと思う。
- ・子どもたちのことを考えて、よりよい環境をつくってほしい。選択もできるような編成を考えてほしい。
- ・少子化の中で、高校の統廃合や再編は仕方がない流れだろうが、通学エリアが拡大するであろうことを踏まえ、公共交通機関の充実やそれに代わる通学手段を検討してほしい。
- ・学舎制を導入した場合、学舎間の移動が実現可能なのか疑問に感じる。距離が離れているため、時間的にも生徒にも負担になるのではないかと不安である。統廃合で学校数は減るが、各学校の募集人数の割合が今と変わらないのであれば、統廃合してしまった方が、後々便利なことが多いのではないかとと思う。

3「近隣の複数の高校を1つの高校として再編する“学舎制”を導入すべきだと思う」

- ・高校入学後もカリキュラム・コースを選択できるようにし、将来について、進学、専門的な学科など柔軟に対応していけることを望む。
- ・丹後地域は交通の便が悪いので、このまま継続することが無理な場合は、学舎制を導入してほしい。統廃合は地域が衰退してしまう。
- ・通学が遠方になるのは少し心配である。部活動、学習時間に影響があるのでは。部活動で公式戦に出られないというのも問題だと思う。よって学舎制が今のところ良いのでは、と考える。
- ・せめて中学、高校ぐらいはたくさんの友人、いろいろな集団に触れられるようになってほしい。社会に出る前に、なるべくいろいろな集団の中で過ごす機会を与えてほしい。そのためにも学舎制は魅力的だなと思った。

◎分校3校を1校に統合し機能を集約することに関するご意見

- ・分校は現在丹後地域に3校あるが、1校に統合して充実した分校をつくっても良いと思う。
- ・京都フレックス学園構想のように、自分のペースで学べる多様な教育システムがどこの地域でも誰でも受けられるようになればと思う。
- ・分校にしか行けない子どもにとっては、距離が遠くなるだけでもかなりの負担が伴う。教員配置や予算の問題等、いろいろ難しいとは思いますが、本校には通えない子どもたちへの配慮を考えてほしい。

◎今後の進め方について

アンケート結果を見ると、「高校の在り方を変えていくこと」について「必要なこと」「仕方がない」との回答が全体の約75%あった一方で、高校の在り方については「よくわからない」との回答も2割程度あったことから、丹後地域における高校の在り方の検討内容、特にこれまでにない新しい「学舎制」について、さらにご理解をいただく取組を進めることが必要と考えており、今後、リーフレットなどをお配りする予定です。

その他、府教育委員会ホームページにもご参考となる内容を掲載してまいりますので、ぜひご覧ください。

丹後 高校の在り方

